

**論壇**

**経済危機で社会は変わる**

今年はコロナで始まりコロナで終わつた。新型コロナウイルスとの戦いはこれからもまだ続くが、1年を振り返つて今年がどのような年であったか考えてみると意味があるだろう。

2020年の世界経済は世界大恐慌以来の落ち込みである。大恐慌が終わつた1940年ごろからみれば80年ぶりということになる。世界的なパンデミックという意味では、スペイン風邪から100年ぶりということになる。きわめてまれな危機の年であった。経済が危機に陥るときには、社

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

会の流れが大きく変わる。1970年代の2度の石油危機で日本の高度経済成長の時代は終わり、日本経済は内需重視から国際化への道を進む。1990年のバブルの崩壊とそれを受けた8年後の金融危機で、日本の経済はデフレ構造に大きく変化した。物価や賃金は上がらず、金利はかつてないほど

などでデジタル化が進み、世界的な保護主義はさらに広がる兆しを見せており。日銀による大規模な財政刺激が続き、日銀のバランスシートや政府の公的債務は膨れ上がりで、こうした動きの先に何があるのか考えると悲観的な気持ちになってしまいます。

## コロナに終始した1年

低くなっている。

それではコロナ前とコロナ後では、経済はどのように変化していくのだろうか。変化といつても新しい動きが出てくるというよりも、コロナ前にも底流に流れている動きがより加速化して顕在化する面が多いだろう。働き方や教育

など療の活用も広がるかもしない。大学などの教育でも、キャンパスに学生が集められないことは悲しいことだが、それでもオンライン教育の活用が広がったことで教育でも新たな流れに期待できる面も多い。

しかし、何事も考えようだ。デジタル機器が私たちの生活に新しい刺激を与えてくれると考えればよい。コロナ禍で動けなくても、ズームで遠くの子供や孫との会話ができる。パソコンを利用して映画や音楽がいつでも楽しめる。英会話を勉強を始めてもよい。私にとっても、2021年はデジタルのスキルを向上させることができ年間の大好きな目標である。これまで仕事のためにデジタル機器を使わざるを得なかつたが、今後は楽しんで利用してみようかと考えている。

ただ、デジタル化の流れは日本を活性化させる大きなチャンスには、経済はどのように変化していくのだろうか。変化といっても新しい動きが出てくるというよりも、コロナ前にも底流に流れている動きがより加速化して顕在化する面が多いだろう。働き方や教育

など、社会のあらゆる面でデジタル化が加速化している。コロナ危機がその導火線となっているのだ。あとから見ると、2020年から21年は社会が大きく変わる節目にかけて働き方改革を進めてきたが大きな成果はなかつた。しかし、デジタル化が進むことは、スマホやパソコンに慣れていない人たちには厳しい面もある。デジタル